

世界の3賢人が語る「未来に選ばれる企業の条件」

2018
12
No.53

定価890円

Forbes

JAPAN

BEST
VISIONARY
STORIES

新しい現実

独占インタビュー! ジェフ・ベゾス
「私が小売り、クラウドの次に支配するもの」

大企業のCEOが描く「未来へのメソッド」

ビジョナリストたちの競演!
2050年「私たちの一日」

COVER STORY
エーザイCEO
内藤晴夫
「患者の喜怒哀楽」
こそが未来を
指し示す
VISIONARY OF THE YEAR

CEO's LIFE

社長の生活考察
——発想力の源を探る

他力野 淳 バリューマネジメント代表取締役

“ひとり時間”で
アイデアを生み出す

町並みや建物を維持するだけでなく、人を呼べる場所に——。歴史的建造物の利活用を手がけるバリューマネジメントの他力野淳氏に、文化維持のためのアイデアを生むコツを聞いた。

edit by Maho Ise
photographs by yOU (Yuko Kawasaki)
伊勢真穂 = 構成 yOU (河崎夕子) = 写真



町は、人の想いが詰まった「文化」そのもの。その文化を、価値ある形で未来に紡いでいきたいと考え、29歳で独立しました。現在は、歴史的建造物や町並みを、宿泊施設やレストラン、結婚式などに活用し、後世に残す事業を展開しています。

「町への特別な気持ち」は、長崎と神戸での原体験によって培われたと思っています。私は、長崎に原爆が投下された8月9日に、長崎県で生まれました。海軍出身の祖父からは、「昨日の当たり前は、当たり前じゃない」ということを、繰り返し何度も聞かされました。

大学3年生のときには阪神・淡路大震災に遭遇。神戸で被災した私は、給水車で何時間も並んで水を汲み、ボランティア活動に参加するだけで精一杯でしたが、じきに傷ついていた町や人に対して言葉で言い表せられない悔しさを感じて、「歴史ある神戸の美しい町を元通りにしたい。いつか必ず力をつけて文化を継いでいこう」と心に決めたのです。

しかしながら、古い町並みや建物、それらが持つ文化を残すだけでは、意味がありません。人が訪れ、時間を過ごし、お金を落としてくれなければ、文化はいずれ衰退してしまふ。人を呼べる場所にするには、新たなアイデアが必要なのです。

現在、仕事で多くのアイデアが求められますが、その中で自らに課したルールが、「ひとりきりになること」。一方、誰かと一緒にいるときは、自分の中に蓄積した知識や経験をアウトプットする時間だと思っています。アウトプットを通じて成長することはもちろ

んありますが、アイデアを生み出すという意味とは異なります。

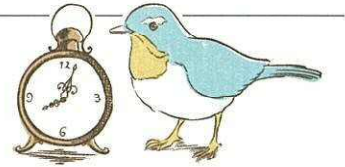
例えば、奈良市の旧市街地「ならまち」を活性化するというプロジェクトを形にしていくなかでも、コンセプトから宿泊施設の屋号まで、たくさんのアイデアが必要でした。そのために、実際に私が考えを巡らせた場所は、四国へと向かう高速バスの中。車窓を眺めながらバスに揺られること1時間半、思いつくままに走り書きした言葉やイラストをもとに、築100年の酒蔵が生まれ変わることになりました。

手を動かした分だけ、ひらめきが生まれるというのは、不思議ですが事実です。また、時間が限られているというのも良い効果をもたらします。1時間半後にはバスを降りるとわかっていて、そこまでアウトプットを出し切ろうと、知らず知らずうちに自分を追い込むのでしょう。

アイデア出しはクリエイティブな仕事であり、積み上げ式ではありません。ここまでやって、1時間後に続きを考えるというわけにはいかない。途中でやめたらゼロリセットされるという前提で、アウトプットしきれないかが大事なのです。

気をつけないといけないのは、集中しすぎる癖ですね。先日も、東京から京都まで新幹線で移動する間に、「壁は杉の焼き板だから、床は自然木がいいかな」などと想像を膨らませていたんですが、ふと車窓に目をやると「京都駅」の文字が……(笑)。降りそこねました。さすがに、降車駅に気づくくらい余裕は残さないといけないな、と反省しきりです。①

たりきの・じゅん◎1973年、長崎県生まれ。96年、大阪商業大学卒業後、リクルートに入社。2000年に人材コンサルティング会社のデジットに入社し、関西支社長に。03年、バリューマネジメントの前身となる事業を創業、05年より法人化。



THE DAY IN THE LIFE

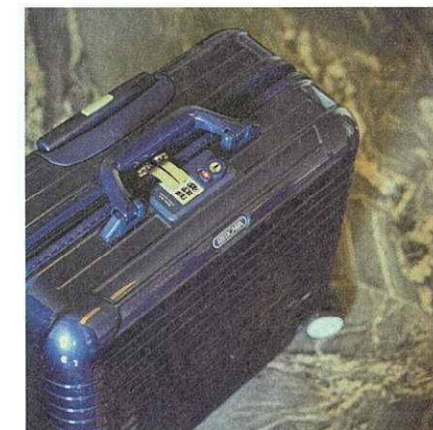
他力野 淳のある1日

▶ 毎朝欠かさないこと
ゲームソフト「信長の野望」のオープニング曲を聴く。

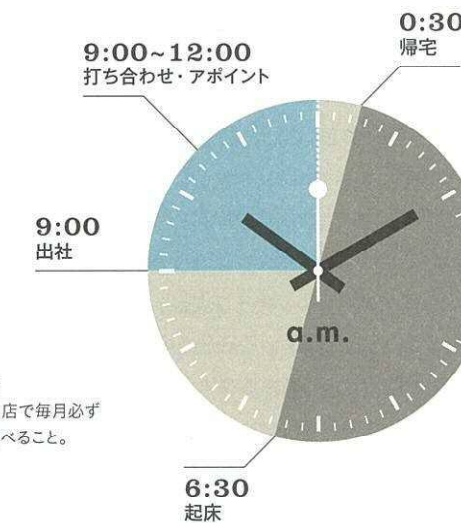
▶ 毎日のルーティーン
寝る前にひと息つく時間を。お供には缶ビールを。



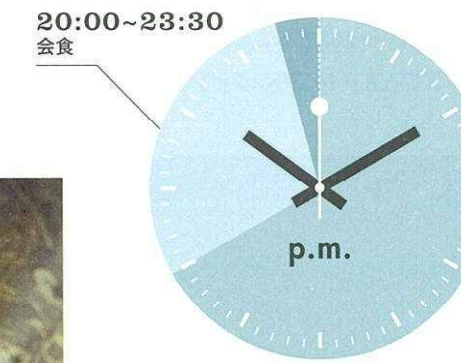
▶ iPad Pro
デザインや設計図など、細かな確認をすることが多いので、大きな画面が必須です。ペンもセットにして、手書きで使用することにこだわっています。



▶ RIMOWAのスーツケース
5代目の相棒です。アルミタイプよりも、このカーボンタイプが好み。サイズ3種類を出張期間によって使い分けているのですが、このサイズは機内泊のみ、現地0泊の海外出張などで大活躍です。



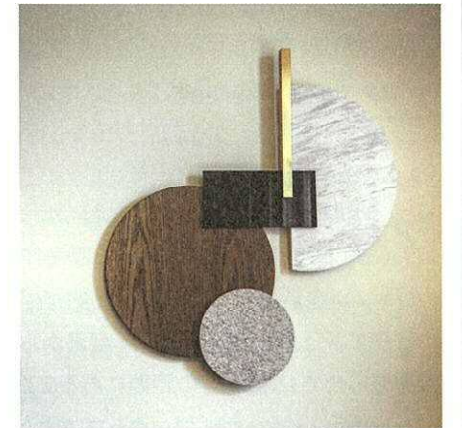
▶ 趣味
鳥居の店で毎月必ず脂を食べること。



▶ 朝食と昼食
日中は仕事に集中したいので食べません。食べるなら美味しいものをゆっくりと、ということで1日一食、夕食のみ。



▶ オススメの一冊
都市工学者・西村幸夫さんの学術書『日本の町並み』。ここに書かれている内容をどう面白く表現したら一般の人に受け入れられるのか。この転換こそが、私の仕事です。



▶ ウォールアート
素材にこだわり、オリジナルで制作したオブジェで、東京オフィスに飾っています。「過去～現在～未来をつなげて価値を見出す」という弊社の「らしさ」を表現できているのではないのでしょうか。

▶ 会食
夕食の9割が、会食。ひと月先まで予定が埋まっています。

▶ 長期休暇ですること
国内外問わず、旅行です。